

SSV最前線

アンピン見聞録 第35弾となる今号では、豊橋NDSの第3期「SSV(セーフティスーパーバイザー)」神藤仁係長に第5期研修中の倉光政雄部長も加わり、SSV活動の最前線の模様を語っていただきました。



【SSV】神藤 仁(じんどう じん) 係長
入社 / 平成11年
所属 / 豊橋NDS(株) ユーザーサービス部
略歴 / 外線班3年、OPTOS3年を経てユーザーサービス部へ。現場で約3年間、工事経験を積んだ後に施工管理担当となり、現在は光SO工事管理と現場巡回に注力中。
第3期SSV



SSVが集めた現場の声を管理者に繋ぐのが会社社員でもある自分の役割と倉光部長(写真右)

SSVになって学んだ教訓

- ◎パトロールから『現場巡回』へ！
パトロールは管理者目線、巡回は仲間目線。目線を揃えると心が通じると実感。
- ◎ものは言いよう！
同じことを伝えるにも、反発される言い方と、賛同される言い方があると実感。
- ◎一人より大勢！
一人でできることの限界を知り、周囲を巻き込む効果を実感。

SSVは
立場の壁を超え、
意識改革を進める
起爆剤です。



◎現在はどうのような取り組みを？

積極的に『現場巡回』を行い、現場の声、時には不満に耳を傾け、解決へ向けて共に考動。第4期までのSSVは皆施工部門所属のため、活動もそれぞれの仕事内容に付随して行っています。私が力を入れているのは『現場巡回』です。安パトではなく現場巡回として行っているのは、会社の方針もありますが、「現場をサポートするための巡回」との意味合いを根付かせたいからです。実際、現場巡回としてからは、「来んでええ」と迷惑気だった人たちが、「〇〇で困ってるから助けて」と打ち明けてくれるようになり、正直、その効果に驚きました。最近は、月平均二桁は実施し、共に考動することで安全の徹底を目指しています。

◎今後の展望は？

現場だけでは対処しきれない問題の解決に向け、管理部門とも連携を強化。次の段階として、現在、各々で行っている活動を継続しつつ、豊橋NDSとして統一的な施策も考える時期に来ていると感じています。そのキーマンとして頼みとしているのが、第5期研修中の倉光部長です。というのも、倉光部長は安全品質管理部門所属ということもあり、他のSSVから安全に特化した相談をととてもしやすいのです。
倉光 そうですね。さらに、管理部門に直接言いにくいことについては私が受け皿となり、施工部門、管理部門一体となったSSV活動の推進に役立っていきたくと考えています。

◎SSVになって変わったことは？

『現場目線』、それだけで驚くほどコミュニケーションがスムーズに！
SSVになる以前の私は工事管理者として常に現場を“管理”しなくてはと気負い、有無を言わせぬ物言いをしがちでした。しかし、SSV研修で「現場の目線で新たな問題解決の糸口を見つける」ことの有用性を学び、まずは上から目線の自分自身の意識改革を断行。その効果を顕著に実感したのが、安全パトロールでした。現場の目線に立つと、同じことを注意するにしても自然と話し方や伝え方が変化します。それに伴い、互いのコミュニケーションからも反発し合う雰囲気なくなり、意思疎通もスムーズに行えるようになっていきます。

【安品本部からのひとこと】 豊橋NDSでやられている現場巡回は、パトロールのイメージを変えた素晴らしい取り組みです。これからもこの取り組みを継続して、安全文化を築いて頂ければと思います。

豊橋NDS株式会社の神藤係長、また倉光部長ご協力ありがとうございました。次号のアンピン見聞録は「実録アンパト」です。